

平成21年度

山形県バスケットボール協会

定例理事会

強化部総括

平成 22 年 2 月 20 日 (土)

文責 強化部長 細谷尚寿

平成21年度 強化部総括

1. 全体総括

新潟国体

- (1) 本県初の天皇杯・皇后杯総合優勝という金字塔を打ち立てた。競技得点 117.5 点を獲得し、本県順位目標 20 位台確保に大きく貢献した。
- (2) 成年男子は、17 年ぶり 4 回目の快挙で優勝した。競技得点 40 点を獲得した。3 ゲーム通して、危なげのない戦いで最高の結果を残した。
- (3) 成年女子は、3 年ぶり 2 回目の優勝を達成した。競技得点 40 点を獲得し、ストレート種別で 5 ゲームをフルに戦い、最終日山形の総合優勝に最高の花を咲かせてくれた。
- (4) 少年女子は、過去最高の第 3 位入賞を果たした。劣勢と思われた 1 回戦福岡戦での気力溢れる戦いで波に乗り、チーム山形の先陣役を果たしてくれた。

※得点等は別紙参照

東北総体（ミニ国体）

- (1) 青森県十和田市で開催された。総合得点では 19 年ぶりとなる総合優勝を達成した。
- (2) 成年男子は、成年男子は、7 年ぶりの優勝。予選リーグ、準決勝青森県戦とも危なげなく勝利し、国体出場権を獲得。決勝戦は秋田県との対戦となり、一進一退の攻防が続いたが、最後の集中力が秋田を上回り、優勝することができた。
- (3) 成年女子は、国体ストレート種別。順当に決勝へ進出したものの、秋田県との対戦で、勝負どころで日本リーグを経験しているベテランにしてやられた感がある。また、母体チームの山形銀行に、大学生がしっかり絡むことができず、本国体へ向けて課題を残す結果となった。
- (4) 少年男子は、善戦したものの厳しい戦いとなった。予選リーグで宮城県・福島県と対戦し 1 勝 1 敗で準決勝へ。2 日目準決勝は、優勝した岩手県と対戦。前半は、相手のハイペースな展開を押しさえ込み、山形ペースでゲームを進めることができたが、後半リバウンドを支配され、14 点差で敗れ、国体出場を果たすことができなかった。
- (5) 少年女子は、予選リーグを危なげなくクリアし、2 勝で準決勝進出。準決勝は、秋田県と対戦し、劣勢に進んだゲームを最後にものにし、延長戦へ突入。勢いに乗り見事勝利し、国体出場権を獲得した。決勝戦は、宮城県とで、大接戦となったが最後 1 点差で敗れた。
- (6) 全体を通して、4 種別中 3 種別が新潟国体の出場権を獲得。

※得点等は別紙参照

全国中学校体育大会

鶴岡二中が出場し、予選リーグ 1 勝 1 敗で通過し、決勝リーグ一回戦金子中（埼玉）に敗れたが、ベスト 16 入りした。

※得点等は別紙参照

インターハイ

- (1) 山形中央高は、3 回戦で明成高校（宮城県）に敗れ、ベスト 16。
- (2) 山形商業高は、3 回戦で星城高校（愛知県）に敗れ、ベスト 16。

ウインターカップ

- (1) 山形南高は、3 回戦で福岡第一高校に敗れ、ベスト 16。
- (2) 山形商業高は、3 年連続で準決勝に進出し、3 位決定戦で札幌山の手高校（北海道）に敗れ、たが、第 4 位入賞。

インカレ

山形大学女子が4年連続のベスト8入りを果たし、結果は8位。

東北インカレ

山形大学女子が5年連続の東北制覇。

東北総合選手権

女子で山形銀行が優勝。山形大学が第2位。山形銀行が全日本社会人大会で優勝しているため、山形銀行・山形大学がオールジャパン出場決定。

東北中学校体育大会

大館市で開催。男子は、高島四中が第3位。女子で、鶴岡二中が決勝に進出し優勝。全中出場を果たした。また、鶴岡一中也準決勝に進出し、惜しくも破れたが第3位。

東北電力旗東北ミニ大会

男子 大山スポ少が第3位入賞。

2. 種別総括

〈成年男子〉

- (1) ミニ国体で優勝したことで、シードポジションを獲得し、有利に大会を勝ち進むことができた。キャプテン中村・センター橋本らメンバー全員が絡み、スタッフ・選手が一体となった結果である。本国体を見据えた強化スケジュールが見事に功を奏し、最高のパフォーマンスを発揮してくれた。スタッフ・選手、すべてオール山形でのこの結果は、非常に意義深い。
- (2) まだまだ母体チーム（山形市役所・山形教員）の練習が十分とは言い難い。川西クラブ・吹浦クラブ並に練習を地道に継続してほしい。東北オールジャパン予選でベスト4に入るチームが2つあると心強い。選手それぞれが母体チームの核となり、リーダーシップを発揮しながら、更なるレベルアップを期待したい。
- (3) スタッフ・選手を含めての世代交代が繋がりあるものとなり、スムーズにバトンタッチできた。これからもしっかり話し合い方向性を定めたい。打倒秋田県を常に意識し強化を進めたい。

〈成年女子〉

- (1) 協力企業の山形銀行の絶大なるバックアップのもと、強化を進めることができた証である。特に決勝戦では、大応援団を派遣していただき、選手達は非常に心強かった。地域貢献を掲げる様々な取り組みが、チームを活性化させており、地方企業スポーツのお手本とも言える活動である。ミニ国体の反省を生かし、特に決勝戦では山形大学の学生がうまく絡み機能した。オールジャパン（全日本選手権）に両チームが出場できるのも、強化の大きな一因といえる。
- (2) 協力母体企業である山形銀行の熱心な強化活動は大変心強く、これからも様々な場面でのご協力をお願いしたい。
- (3) 当分秋田県との一騎打ちが予想され、今年は秋田銀行に『勝ち癖』がついてきた。

〈少年男子〉

- (1) 今回のチームは、完全に選抜型のチームとなり、インターハイ予選を制した山形中央高の生徒が3名、山形南高4名・日大山形高2名・鶴岡工業高3名で編成したチーム。昨年からスタッフを中村(日大山形高教)・細谷(山形南高教)体制にし、今年は後藤(山形中央)を加えスタート。遠征での成果が大きかっただけに、ミニ国体ではワンチャンスを狙ったが、準決勝岩手県に惜敗した。
- (2) 全中優勝メンバーの高橋(山形南高)・笹原(日大山形高)に意識を持たせて、ストレート種別となる来年度は果敢に勝負したい。

〈少年女子〉

- (1) 山形商業高校単独でチームを編成。初の3位入賞を達成した。昨年・一昨年と連続してウインタ

ーカップ3位入賞を果たしており、特に三年生はその経験を十分生かしての結果となった。一回戦、福岡県戦が大一番であったが、全日本ジュニアの選手が多数いる相手をものともせず、怪我をおして出場のキャプテン佐藤綾香を中心に、気迫と粘りで相手を圧倒した。準決勝で東京に敗れはしたものの、卒のない戦いぶりで過去最高の成績を収めた。

(2) 今後数年は、東北を突破し、全国でも戦える能力を持った生徒が十分揃っている。これまでの強化に更なる肉付けし底上げを図りたい。

《来年度》

千葉国体目標

成年男子 3位 27.5点

成年女子 1位 40点

少年男子 3位 27.5点

少年女子 3位 27.5点

具体的数値目標 『本国体獲得得点60点』

2. 関連総括

- (1) 一貫指導指委員会は、横の繋がりから縦の繋がりへ発展させている。昨今の大会成績が示すとおり充実した強化育成が図られている。今後更なる強化活動を推進していきたい。
- (2) 指導者育成委員会は、茂木卓矢新委員長（山形中央高）のもと、JABBA公認コーチ講習会を2回開催予定。1回目、7月には日高哲郎氏（千葉大学監督）を招聘し指導していただく。2回目12月には佐藤智信氏（白鷗大学監督）を招聘し開催予定。
- (3) 戦術戦力分析委員会は、今年度大坂インターハイ・新潟国体それぞれに視察員を一名ずつ派遣。有力チームの技術・戦術動向の情報収集と分析を行った。
- (4) 今年から各種別に対し、県協会独自で強化費を配分していただいた。東北総体（ミニ国体）へ向けて各種別15万円。国体へ向けての強化費として成年男子に20万円、少年女子に10万円を配分する。競技団体としては、画期的な取り組みであり、お骨折りいただいた事務局関係各位の方々には深く感謝を申し上げたい。

平成 21 年度東北総合体育大会並びに新潟国体バスケット競技

スタッフ及び山形県代表選手

<成年男子>

監督	小野 賢一郎(米沢中央高教)			
コーチ	岡崎 克幸 (山形市体協)			
コーチ	渋谷 豪人 (渋谷建設)			
主 務	武田 宣行 (ケーブルテレビ)			
トレーナー	菊池 忍 (sound, M, B)			
選 手	中村 裕紀(山形市役所)	小野 学 (山形市役所)	伊藤 和哉(高島高教)	
	笹原 慎也(米沢東高教)	阿部 一貴(吹浦クラブ)	齋藤 剛 (吹浦クラブ)	
	橋本 伸広(川西クラブ)	五十嵐裕也(東北電力宮城)	関野 尚也(仙台銀行)	
	荒木 直人(山形ベスラベナ)	太田 真司(専修大学)	古瀬 矩嵩(明治大学)	

<成年女子>

監督	山田 かがり (山形銀行)			
コーチ	仲内 美由貴 (山形銀行)			
主 務	原田 園子 (山形銀行)			
選 手	北野 尚子(山形銀行)	菅野 恵子(山形銀行)	佐々木 ゆみ(山形銀行)	
	難波 美奈(山形銀行)	佐藤 知穂(山形大学)	勝倉 光希(山形銀行)	
	遠藤 真美(山形銀行)	阿部 愛美(山形大学)	中谷 歩(山形銀行)	
	渡邊 明日香(山形銀行)	渡邊 千尋(山形銀行)		

<少年男子>

監督	中村 紀男 (日大山高教)			
コーチ	細谷 尚寿 (山形南高教)			
アシスタントコーチ	後藤 恵治 (山中央高教)			
主 務	山科 智史 (日大山高)			
選 手	佐藤 正成 (山形南高)	小山内純平 (山中央高)	小野 駿樹 (鶴岡工高)	
	堀 直人 (山形南高)	小野 翔太 (山中央高)	齋藤 諒太 (鶴岡工高)	
	佐藤 翔太 (山中央高)	今野 樹 (鶴岡工高)	高橋 貴大 (山形南高)	
	笹原 祐樹 (日大山高)	菅野 勇斗 (山形南高)	熊澤 佑柁 (日大山高)	

<少年女子>

監督	高橋 仁 (山形商高教)			
コーチ	茂木 卓矢 (山中央高教)			
主務	海野 楓 (山形商高教)			
選 手	佐藤 綾香 (山形商高)	加藤 千尋 (山形商高)	武田 灯 (山形商高)	
	小野 夏希 (山形商高)	佐竹 美咲 (山形商高)	後藤 由喜 (山形商高)	
	原田 英里 (山形商高)	上野 真実 (山形商高)	横山 史佳 (山形商高)	
	大沼 美琴 (山形商高)	黒田 陽菜 (山形商高)	細谷映理菜 (山形商高)	

祝 山形県

新潟国体 天皇杯 総合優勝 (初優勝)

皇后杯 総合優勝 (初優勝)

成年男子 優勝 (17年ぶり)

成年女子 優勝 (3年ぶり)

少年女子 第三位 (32年ぶり)

東北総合体育大会 総合優勝(19年ぶり)

成年男子 優勝

成年女子 第二位

少年男子 第三位

少年女子 第二位